

授業科目名 (英文表記)	「人生論」の哲学 ～コロナ禍の今、日本三大随筆を読み直す～ (An Introduction to Japanese Philosophy : Essay on Life)		
単位数	2 (学部生のみ)	授業形態	講義、オンライン (Zoom)
担当教員	天野 雅郎		
開講	南紀熊野サテライト	区分	学部開放科目
実施日・時間	① 5月29日(土) 13:00～17:00		
	② 6月12日(土) 13:00～17:00		
	③ 6月26日(土) 13:00～17:00		
	④ 7月10日(土) 13:00～17:00		
	⑤ 7月31日(土) 13:00～17:00		
	⑥ 8月21日(土) 13:00～17:00		
<p>【授業の概要・ねらい】</p> <p>哲学は難しい、という印象を多くの人が持っています。 たしかに、哲学は難しく、ひょっとすると全ての学問の中で、もっとも難しい学問であるのかも知れません。 が、それと同時に哲学は、いたって易しい、あらゆる人に開かれた学問(と言うよりも、学問以前の学問)であることも事実です。 この授業では、そのような哲学の難しさと易しさを、あたかも茶の湯(=茶道)と日常茶飯の両面から、お茶を飲み、ご飯を食べるかのよう、皆さんに伝えることが叶えば幸いです。</p> <p>今回のテーマには、人生論を選んでみました。 なぜなら、そもそも哲学が一番、哲学の特徴を際立たせ、それ以外の学問との違いを浮かび上がらせるのは、この「人生論」であるからです。(…人は何故、生きるのでしょうか？ 生きることによって、人は何を願い、何を望んでいるのでしょうか？ 人が生きることには、どのような意味と価値が含まれているのでしょうか？…)</p> <p>古来、このような問い掛けは、哲学が延々と繰り返してきたテーマに他なりませんし、現在、いわゆる「コロナ禍」や、さまざまな禍(わざわい=災)を通じて、あらためて私たちに突き付けられているテーマに他なりません。 この授業では、そのような哲学の、古くもあれば新しくもある、永遠のテーマを踏まえつつ、この国の代表的な人生論である「枕草子」と「方丈記」と「徒然草」を読み直し、この「日本三大随筆」の面白さを、皆さんと共に味わうのが狙いです。</p>			
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：講読「枕草子」 第2回：同上 第3回：講読「方丈記」 第4回：同上 第5回：講読「徒然草」 第6回：同上</p>			
<p>【到達目標】</p> <p>コロナ禍の今、人が地域社会(ひいては、国際社会)で生きることには、どのような意味と価値と、その困難が伴われるのでしょうか。一人一人の「人生論」を築き上げるのが目標です。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>角川文庫(ビギナーズ・クラシック)版 ①「枕草子」 ②「方丈記」 ③「徒然草」</p>			
<p>【参考書】</p> <p>適宜、紹介します。</p>			
<p>【授業時間外学修についての指示】</p> <p>毎回、テキストの所定の箇所を読み、授業に参加することが必要です。</p>			
<p>【履修上の注意・メッセージ】</p> <p>多くの皆さんの、ご参加を期待します。</p> <p>※この科目は、Zoomを利用したオンラインによる遠隔授業です。 オンラインによる授業を受講する場合に必要なパソコン、ネット環境は、各自で準備してください。</p>			